



余養だよい

令和8年7月17日
令和8年度 第2号
北海道余市養護学校発行

～地域と共に歩む「こどもまんなか」の学校づくり～

～PTA・後援会・学校の三位一体の連携を目指して～

北海道余市養護学校 副校長 本 田 憲 行



日頃より本校の教育活動への御理解と御協力を賜り、心より感謝申し上げます。
昨年度はICT 教育の推進について執筆いたしましたが、今年度は学校経営方針の大きな柱である「地域との協働」について、本校のグランドデザインと共に展望をお伝えいたします。

本校は「生きる力」「生きる喜び」を培うことを教育理念とし、今年度は子ども一人一人が毎日の主役となる「こどもまんなか余市養護学校」の実現を目指しています。重点教育目標には「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実を掲げました。これは、子どもたちが地域の良さを知り、地域の方々の温かさに触れながら共に成長する「魅力あふれ、地域に貢献する学校」を目指すものです。

この地域協働を具体化する核となるのが、「学校運営協議会によるコミュニティスクール(CS)」です。今年度は「**支えられ、支え合う、余市の輪 ～日常の学びを地域へつなぐ学校づくり～**」をテーマに掲げました。学校での日々の頑張りを地域に還元するとともに、地域住民の皆様と学校が互いの資源や知識を共有して共に協力し合いながら学校づくりを進めていきたいと考えており、PTA の皆様とも手を取り合って進めてまいりたいと思います。

また、本校には長年子どもたちの活動を支えてくださっている「**後援会**」の存在があります。近年は、感染症の流行により活動が制約されていましたが、今年度は「令和9年度における本格的な活動」に向けた準備を進めています。後援会からの支援は、花壇の整備や学校行事への補助、外部講師の招聘など、子どもたちの教育環境を整える貴重な力となっています。今後は、学校・PTA・後援会が三位一体となった取り組みを推進し、子どもたちの学びをより豊かなものにしていきたいと考えております。

子どもたちが健やかに育ち、関わる全ての人々がウェルビーイングを実感できる学校づくりに邁進してまいります。皆様のより一層の御支援を心よりお願い申し上げます。

～小学部低学年 体育発表会～

6月26日（金）に、余市養護学校体育的行事のラストとして、小学部低学年ブロック（1～3年生）体育発表会を行いました。1年生の学年競技「玉入れ走」では、片足跳びでの「けん、けん、ぱ」や平均台の後歩きなど難しい活動に自ら意欲的に取り組んだり、60個の「玉入れ」では新記録を目指して急いで取り組む中でも、友達にボールを渡したりするなど、協力して取り組む姿を見ることができました。2、3年生の学年競技では、鉄棒やマットなどの「器械運動」、平均台や縄跳び、タンブリンジャンプなどを取り入れた「サーキット走」を行いました。たくさんの活動、途中移動もある発表でしたが、さすが2、3年生、発表内容をしっかりと覚え、落ち着いて日々の学習の成果を発揮することができました。

学年競技以外にも、「それもいいね」の曲にのせてスカーフを揺らしながら踊る表現運動（ダンス）、体育館一周を走って次の友達にバトンを託す全員リレーなども行い、御家族や事業所の先生からの多くの拍手の中、いつもよりも笑顔で元気に取り組むことができました。また、代表の言葉や振り返りでの発表、始めや終わりの挨拶、ラジオ体操での手本など、役割活動も立派に行うことができました。

体育発表会に向けて頑張りと、たくさん喜んでもらったことは、次の学習にもつながるよい経験だったと思います。御協力、御声援、ありがとうございました。担当：藤原



～小学部高学年 体育発表会～

【白いボールを狙え！白熱のボッチャ大会で大盛り上がり！】

先日の体育発表会では、小学部高学年ブロックの競技として「ボッチャ」を行いました。これまで体育の授業で一生懸命練習を重ねてきた子どもたち。本番はいつも以上の熱気に包まれました。

白いジャックボール（目標球）を目掛けて、一投一投に全集中！ランプ（勾配具）を慎重に調整して転がす子、力強くボールを投げ進める子、それぞれが自分のスタイルでベストを尽くしました。

ボールが目標球にピタッと近づくたびに、「おおー！」という歓声と大きな拍手が沸き起こり、体育館は大盛り上がり。友達のナイスプレーを「すごい！」と一緒に喜び、高学年らしい素敵な姿もたくさん見られました。

また、「もしものがたり」の曲に合わせた表現運動では、全員が楽しそうにそれぞれのリズムで体を動かすことができ、達成感のある表情がとても印象的でした。

全員がキラキラとした笑顔で、一致団結した最高の体育発表会となりました。保護者の皆様、温かい応援を本当にありがとうございました！

担当：齋藤



～中学部 体育大会～

【「Never Give Up!」を胸に、全力で駆け抜けた一日】

6月5日（金）、本校中学部にて体育大会が開催されました。今年のスローガンは、生徒たちが選んだ「Never Give Up!」です。この合言葉の通り、生徒一人一人が最後まで決して諦めず、真剣に競技へ挑む姿が強く印象に残る素晴らしい大会となりました。

競技は短距離走からスタートし、全員がゴールを目指してトラックを全力で駆け抜けました。続く表現種目「よっちょれ」では、映画『ズートピア2』の音楽とコラボレーション。アップテンポなリズムに合わせて元気いっぱい踊る生徒たちの姿に、会場は盛り上がりました。

そして団体競技「ビッグオセロ」では、赤チームと青チームに分かれて白熱した戦いが繰り広げられました。生徒たちは仲間と協力し合い、勝利に向けて作戦を考案。最後のブザーが鳴り響くその瞬間まで、全員が一丸となって取り組みました。

当日は保護者の皆様をはじめ、多くの温かい御声援をいただき本当にありがとうございました。

いままでの練習の成果と、チームで培った絆を、今後の学校生活にも活かしてまいります。



担当：弘松

～高等部 見学旅行～

高等部3年生は、5月27日から29日までの2泊3日で東京方面への見学旅行を実施しました。

1日目は日本科学未来館を訪れました。ロボットと触れ合うなど体験型展示を通して、最新の科学技術について学ぶことができました。

2日目の午前には葛西臨海水族園を見学しました。マグロが群れで泳ぐ大水槽を間近で見ました。海の生き物の生態や海洋環境について理解を深めることができました。午後は東京ディズニーランドを訪れました。グループごとに計画したアトラクションを楽しんだり、キャラクターと写真を撮ったり、お土産を選んだり、思い出に残る時間を過ごしました。

旅行中は、生徒一人一人が見学先での挨拶係や点呼係、レクリエーション係などを担当し、責任をもって自分の役割を果たすことができました。また、公共の場でのマナーや時間を守る意識をもって行動し、集団生活における協力の大切さを学ぶ貴重な機会となりました。

今回の見学旅行を実施するにあたり、保護者の皆様には事前の準備や体調管理など、多くの御協力をいただきました。心より感謝申し上げます。



担当：大橋

～訪問教育学級 みどりの里～

6月16日（火）18日（木）「令和8年度みどりの里体育交流会」が開催されました。みどりの里リハビリテーションホールで、家族や病院スタッフが見守る中、「みんなで楽しく体を動かそう！」というテーマで三つの競技を行いました。一つ目は、風船バレーです。BGM「ジャンボリーミッキー」の曲が流れる間、それぞれの方法で風船に触れてパスを繋ぎました。二つ目は玉入れです。BGM「超最強」が流れる中、余市の特産りんごや、さくらんぼ、ぶどう、たまごやウニなどをいろいろな方法で一つの籠に収穫する様子を発表しました。スロープを滑らせたり、天板から腕を動かして落としたり、紐を引いて落ちる仕掛けを使うなどそれぞれの方法で玉入れをしました。みんなで協力してたくさん収穫できました。三つ目はカラーバレーンを使ったダンスです。それぞれ事前学習で装飾した袋の紹介をして、BGM「虹の向こうに」に合わせてポリ袋を持って腕を自分で動かしたり、教師と手をつないで腕を動かしたりしてダンスをしました。保護者や病棟スタッフ、リハスタッフの応援を受けてたくさんの笑顔が見られました。

担当：北



～寄宿舎の様子～

令和8年度、寄宿舎は小学部2名、高等部6名の計8名で元気にスタートしました。

寄宿舎生活では、将来の「自立と社会参加」を見据えながら、子どもたち一人一人のペースや地域の様子に合わせた丁寧なサポートを心がけています。毎日の生活のなかで、少しずつ「きまりや時間を意識して動くこと」ができるよう、また仲間と「協力する気持ち」を育めるよう、日々の活動に取り組んでいます。

今年度は、健康的な生活リズムを作るための新しい試みとして、毎朝の登校前にラジオ体操（自由参加）を始めています。また、みんなで使う場所を自分たちできれいに掃除するだけでなく、学校のまわりのごみ拾いにも挑戦しています。「地域の一員」としての意識も少しずつ芽生えてきているようです。

集団生活を通してお互いに協力し、毎日の生活を楽しみながら、「自分でできること」をどんどん増やしている子どもたち。

先日は、余市町の素敵なイベント「余市神社例大祭」にも希望者で参加してきました。今後は果物狩りなど、さらに地域とのつながりを広げながら、体験活動を計画していく予定です。

どうぞお楽しみに。

担当：白木

